

---

# ハヤテの一存

moe

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ハヤテの一存

### 【NZコード】

NZ8815Y

### 【作者名】

moe

### 【あらすじ】

とにかくグッダグダです。

その2

「なぜ、あのツインテが萌えポイントであるナギたんがここに？」

「お前、だれかは分からんがナギたんはやめの」

「ナギたんカワユス――――――――

「あ、あの男にモテモテのハヤテさんですよね？ま、真冬大ファンで・・・」

「あ、ありがとうございます。えつと真冬さん」

「力オス」

— — — — —

「みんなつるわこよー説明できなこよーもつ、静かにし

二

説明は、次回へ続く！

## その2（後書き）

誤字脱字がありましたら言つてください！

「ハヤテの『』とくつてバトル漫画だよな————」

「いや、むしろグッダグダだが」

「ナギちゃんは、漫画では学校がほりてゐるけど、実際はちゃんと行つてゐんでしょう?」

「いや、漫画の通りだが」

四庫全書

「ん、どうした?

『ダメじゃん！――！』

「そういえば、なんでまたハヤテの」とくと生徒会の一存がコラボしたんですか？」

真冬ちゃんが、俺たちのもつとも聞きたかつたことを、可憐らしい顔をして聞く。

「それは・・・・・・」

会長は、真面目な顔でこう呟いた。

生徒会だけでなくハヤテやナギの顔にも衝撃が走る！

また、続きは次回！

### その3（後書き）

これから、お夕飯なのでよならー。ごめんなじくです。

## その4

「もお、アカちゅん。そんな理由で、ハヤテさんたちと『リボ』してるので・?」

「せりしね、ハヤテさんとナギさんには生徒会の実習生をやつてもいいことにしたの!」

「はあああ

知弦さんが深いそれはそれは深いため息をついた。

「ハヤテさん、ナギさん」

『はい?』

「もう帰つていいわよ。あなたたちも『いいの』でしょ?」

「ダメだよおおおおお!」

会長が泣き始めた。それを見て、ぎょっとした顔をする2人。

「だ、大丈夫ですよ!僕たけむじる殿ですし···ねえ、お嬢様?」

「ああ!全然問題ないぞ!」

( や、優しい! ! ! )

それでは、また次回!



#### その4（後書き）

ハヤテの一存と検索して出てくれるもハーフスリのやつは、  
投稿したやつなので、みんなで—————（恥）￥￥￥￥

「で、生徒会って具体的には何をするんですか?」

・・・・・・・(汗)・

やべえ、生徒会って基本何もしてねえーなんて言おつ・・・。よし、  
これは正直に・・・。

「ページ稼ぎに駄弁つてます(汗)」

『お前らのやうがよいまじなくね――――――』

「まあ、ハヤテさん達にはただただしゃべってもりえねーです！」  
ナギたん？

「やめろそれ

「でわ、明日からよろしくお願ひします」

## ルの5（後書き）

ああ、状態のないやつがへへへ？なんてね

## ルネ (繪畫家)

ここまで本編に近づいてもしました。・・・。

それは、すこし前のお話……。

「ハヤテー、碧陽学園とやらから手紙が来てるぞ——」

「ねじゅーたがー、今手が離せないので、内容読んでもらえますか

「わかつた——」

「は、旧ナギの家。なにせ少し前の話だからな……」

「えーっと、ハヤテ様、ナギ様、  
みませんか・・・だってよー」  
私達碧陽学園生徒会とコラボして

「つづきをせ何て？」

明日の夕方4時に碧陽学園の生徒会室でおまちしております

桜野くりむより

「じゃあ、明日どうあえず行つてみますか。それから、どんな」と  
をするか聞いてみましょひ?」

「ルーラー」の登場人物

「碧陽学園つてたしか生徒会の一存の舞台になつてゐるといふですよ」

「うん、明日が楽しみだ」

「・・・・・」

こうして、ハヤテたちが、生徒会に行くことになったのだった。

## その6（後書き）

へたくそですが、見てください。

「と、いうわけで今にいたります。なので、よく分からなこまお」  
「こいののですが、とにかく駄弁つ

ていればいいんですね？」

次の日、ハヤテさんが一通つっこに来たわけを話したが……。

「会長……？」

「な、何かな杉崎よ……（汗）」

「会長でもやつてここと、悪こことがあるのは知っていますよ。  
・・ね・・・？」

「う、うん」

「ハヤテさんの話を聞く限り、これは相手やつてほこけないことが  
と・・・・」

「だつて……」

会長が黙り込む。またまた涙田だ。会長、なんかめっちゃ可愛い。  
ナギたんもハヤテさんも他のみんな

も、なんか背景がピンク色だ。

「まあ、まあ今回はもう少しうがなこんで思いつめつカラボを、楽し  
みましょー!」

「杉崎……」

と、いうわけで次回へ続く!

## その7（後書き）

やつとい、次回本編かける・・・・。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8815y/>

---

ハヤテの一存

2011年11月27日19時53分発行